



大洲市出身のタカラジェンヌ

雪組 <sup>あやかぜ</sup>彩風 <sup>さきな</sup>咲奈 さん

# 今、伝えたいこと

輝かしい舞台に立てるまでには、いろいろな苦勞がありました。それでも乗り越えてこられたのは、たくさんの方の応援、そして大洲での思い出があったからです。

— 彩風 咲奈 —

みなさんこんにちは、宝塚歌劇団雪組所属の彩風咲奈です。厳しい夏の暑さに、体調などを崩していませんか。

さて、シリーズで掲載していただいていた「宝塚通信」も、今回が最後となりました。

第1弾から3弾まで、私の活動や宝塚歌劇団の歴史などさまざまなことを、大洲をはじめ、より多くの方へ紹介することができました。

今回の「宝塚通信」では、私の宝塚に対する思い、そして、ふるさと大洲に住んでいるみなさんへ、メッセージを伝えたいと思います。

## 運命の口、抱く思い

私の夢のきっかけは、小学校6年生の時にたまたまテレビで放送していた「ベルサイユのバラ」を見たことです。それは偶然でありながら、運命ともいえる出来事で、私の夢への挑戦はここから始まりました。もしあの時、宝塚の放送を見ていなかったら、『彩風咲奈』は存在していなかったかもしれません。

幼い頃に見た宝塚の雰囲気、華やかさは鮮明に覚えている、今でも初心を忘れないための大切な思い出になっています。

## 大洲の思い出が元気の源

夢を叶えるために訪れた兵庫県宝塚市は、大洲と比べて少し都会に思えました。しかし、川や山に囲まれた自然豊かなところが、どことなく大洲の雰囲気と似ていました。私にとってはとても過ごしやすい環境で、ホームシックになることもありませんでした。

宝塚音楽学校、宝塚歌劇団では、さまざまなレッスンがあり、忙しい日々が続きます。そんな中でも頑張ることができるのは、富士山・いもたき・花火など、大洲で過ごしてきた数々の思い出があるからです。

帰省する時には、当時通っていた学校に足を運んでみたり、友人と遊んだりして、大洲の自然を感じながらリラクセスするようにしています。定期的に帰省できるわけではないけれど、いつでも優しく迎えてくれる大洲の雰囲気、地元の人々が私は大好きです。

帰るたびに元気をもらい、頑張ろうという気持ちにさせてくれるふるさと大洲は、本当に素晴らしいところですよ。私は大洲に生まれ、大洲の自然と温かみのある人たちに囲まれて育ったことを誇りに思っています。



©宝塚歌劇団

## 夢が叶うまで挑戦し続ける

宝塚を夢見てから今まで、多くの困難や苦しいことがありました。しかし、大洲では体験できない刺激や発見があり、そのたびに夢を諦めないでよかったと思っています。その夢も、私一人の力ではなく、たくさんの人たちに支えられたおかげです。

バスツアーなどで、はるばる大洲から公演に足を運んでいただくみなさんには、たくさんのお勇気や元気をもらい、本当に感謝しています。みなさんの温かい応援が励みになり、私は一人ではないと感じることが出来ます。



©宝塚歌劇団

私の夢への挑戦は、これからもまだまだ続きます。私が幼い頃に見て憧れた宝塚歌劇団。今度は私が、夢や希望を与えられるタカラジェンヌになれるよう、初心を忘れず、日々の稽古に全力で取り組んでいきます。

私の挑戦を応援してください。みなさんには、公演を通して精一杯恩返ししていきたいなど考えています。これからの彩風咲奈の活躍や、成長に期待しててください。

宝塚歌劇の舞台上、みなさんのお越しをお待ちしています。

# がんばる大洲企業



弊社は、株式会社アイカの製造工場として、平成19年に長浜町晴海で操業を開始しました。現在は伊予市にある本社や、全国に4つの営業所を構え営業しています。弊社では、主にプランターなどの園芸用品を取り扱い、メーカーベンダーとして製造から販売まで一貫して行っています。一日あたり約3万個製造し、全国各地にある7000以上の小売店などへ出荷しています。

長浜町にかかわらず、四国内に工場を設立することは輸送費などの面から敬遠されがちです。しかし、県内の特に南予地方では、人材が集まりやすく求人に関すること

## 株式会社アイカ 長浜工場・物流センター

「常に新たなことに挑戦し続ける」

は比較的ありません。弊社でも、市内在住の従業員が多く働いています。また、土地資源が豊富にあるため、将来事業の拡大を図りやすいというメリットもあります。

販売競争が激しくなる中、いかにお客様のニーズに合う商品を提供できるかが今後の課題になってきます。そのためにも、社員や市場の意見を収集し、それを商品に反映できる体制づくりが重要です。

弊社では、園芸用品のほかにも、樹脂製三次元マットレスの販売、デザインや印刷業務も取り扱っており、着実にこれらの業績も伸びてきていて、大手企業では手の出しにくい「少量多品種」分野への参入が、今後の新たな挑戦になります。

現代では目先のことはもちろん、将来を見据える力が求められます。リスク分散という点も含め、常に販路・事業を拡大させていくことは大切な戦略の一つだと思います。これからも、常に広い視野で物事を考え、あらゆることにチャレンジしていきたいです。

▽所在地 長浜町晴海3・4・2  
▽電話 ⑤23151

## 文化財



とよしげい しかがど  
豊茂五ツ鹿踊り  
大洲市指定無形民俗文化財  
豊茂五ツ鹿踊り保存会

鹿踊りは、宇和島藩初代藩主伊達秀宗の宇和島入部とともに仙台からもたらされたもので、鹿の頭をかぶり太鼓を持った踊り手が、鹿の動きを表現するように激しく跳びはねる踊りです。「しか踊り」「デンデコ」「鹿の子」とも呼ばれ、南予地方一円に伝わる伝統的な民俗芸能の一つです。

現在の鹿踊りは、「五ツ鹿」が一般的ですが、もともと「八ツ鹿」であったものが、各地に広がるにつれて少しずつ鹿の数が減り、「七ツ鹿」「六ツ鹿」「五ツ鹿」になったと言われています。

豊茂に伝わる五ツ鹿踊りは、天保12年(1841)豊茂村の丸又七三郎が宇和島藩の宮内村(現八幡浜市保内町宮内)へ出向き、村人から教わったと伝えられています。毎年10月に行われる豊茂三嶋神社の秋祭りで演じられています。

(昭和55年3月11日指定)

## 野鳥



コルリ (小瑠璃)  
スズメ目ヒタキ科  
大きさ14cm

お盆を過ぎると、早くも移動する小型のヒタキの仲間です。東日本や石鎚山系などの涼しい所で繁殖して、越冬のためタイやフィリピンに渡って行きますが、その途中、市内の山間部の林道などで見ることができます。

この季節は野鳥を目にするのが少ない時期なので、薄暗い地面で虫を捕らえている野鳥はほとんど本種です。雌は地味な茶色ですが、成鳥雄の背中上品な青で、お腹は白く美しい色をしています。日本で見られる青い鳥は、夏鳥のオオルリ、冬鳥のルリビタキと旅鳥のコルリですが、どの鳥に出合っても青い姿を見ると幸せな気持ちになります。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト⑤



8月3日(土)・4日(日)

## 夜空に染まる大輪の華 ～花火大会 大洲・長浜～

大洲の夏最大のイベントである花火大会が、肱北河原（3日）、肱南河原（4日）でそれぞれ開催されました。

今年は「一句感大洲一夏、夏、夏！これが大洲の夏だ！！」をテーマに、色とりどりの合計約4000発の花火が、8万人もの観客を魅了しました。

3日には長浜地域でも花火大会が行われ、会場に集まった大勢の観客たちは、涼しい浜風にあたりながら、きれいな花火を楽しんでいました。



7月13日(土)

## 肱川の夏の風物詩 ～道の駅「清流の里ひじかわ」夜市～

毎年恒例となった、道の駅「清流の里ひじかわ」の夜市が開催されました。

道の駅の駐車場を一部利用して、ステージやビアガーデンの会場を設け、その周りには多くの出店が立ち並びました。ステージでは、アマチュアバンドの演奏やヒップホップダンスが披露され、会場は大いに盛り上がりました。

また、「お楽しみ抽選会」では、景品の当選番号が発表されるたびに大きな歓声が起こりました。



8月4日(日)

## 息を合わせて全力前進 ～第18回ドラゴンボート大会～

肱川地域の恒例行事であるドラゴンボート大会が、鹿野川湖漕艇場で行われました。

今大会には39チーム463人がエントリーし、往復約450メートルあるレースのタイムを競い合いました。

安定したレース運びをするチームがいれば、気合が空回りして転覆してしまうチームもいるなど、どのレースも目の離せない展開となり、会場は終始盛り上がりを見せていました。



7月28日(日)

## 全力を出し切り笑顔でゴール ～第19回ジュニアトライアスロン大会～

青少年の健全育成を願い、第19回ジュニアトライアスロン大会が、緑地公園で開催されました。

当日はあいにくの雨のため、デュアスロン（スイムをランに変更）で実施されましたが、市内外から129人もの鉄人たちが集まり、白熱したレースを繰り広げました。

今大会には、ロンドンオリンピック日本代表の細田<sup>ゆういち</sup>雄一選手も応援に駆けつけ、レースを通して子どもたちの交流を深めました。